

電力データを活用した空き家実態調査支援

取組の背景

- 東京電力パワーグリッド・中部電力・関西電力送配電は、スマートメーターをはじめとする電力データを活用した社会課題の解決やビジネス価値の創出に取り組んでいるが、多くの自治体や関係機関が電力データを活用した空き家実態調査支援に関心を寄せている。
- その背景として、各自治体を実施している空き家の実態調査に多くのコストと時間を要している実情がある。また、空き家かどうかは外観調査で判定しているため、利活用可能な空き家が見落とされていたり、調査精度にばらつきが生じているといった可能性が想定される。

取組内容・期待される効果

【主な取組内容】

- 空家特措法及び個人情報保護法に基づき、東京都内の一部自治体と連携して、電力データを活用した推定空き家リストを作成し、当該自治体に提供。推定空き家リストと現地調査結果との比較検証を行うことで、空き家実態調査における電力データ活用の有用性を検証する。

【期待される主な効果】

- 電力データを活用することにより、これまで空き家の実態把握に要していた各自治体の費用・時間の削減が期待される。また、従来に比べ、調査精度の向上や均質化が実現する可能性も期待される。

- 今回試行する都内全域を対象とした統計データによる空き家実態の可視化や、今後、時間の推移による電力データの差分観察を定期的実施することができれば、早期に空き家の傾向を把握することで効果的な対応策を講じるなど、空き家対策を向上させる可能性がある。

